

平成28年度第4回地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会 議事録

日 時	平成28年11月8日(火) 14:55~16:20	
場 所	天神スカイホール ウェストルーム	
出席者	委員	福岡市医師会 副会長 寺坂 禮治 産業医科大学公衆衛生学教室 教授 松田 晋哉 医療法人佐田厚生会佐田病院 理事長 佐田 正之 福岡県看護協会 会長 花岡 夏子 公認会計士 行正 晴實
	事務局	福岡市保健福祉局長, 同理事, 同健康医療部長, 同医療事業課長
	病院機構	理事長, 副理事長, 運営本部長, 法人運営課長, 福岡市立こども病院事務部長, 同総務課長, 同医事課長, 福岡市民病院事務部長, 同総務課長
次 第	1 開会 2 議事 (1) 地方独立行政法人福岡市立病院機構第3期中期目標(案)について (2) 地方独立行政法人福岡市立病院機構第3期中期計画(素案)について 3 その他	
配付資料	資料1 第3期中期目標(9/6素案)との比較対照表 資料2 地方独立行政法人福岡市立病院機構 第3期中期目標(案) 資料3 第3期中期目標(案)策定にあたっての意見書(案) 資料4 第3期中期目標(案)と中期計画(素案)の比較対照表 参考資料1 地方独立行政法人法(抜粋) 参考資料2 第2期中期目標期間中の各年度実績値等及び第3期中期計画の目標値 参考資料3 第2期中期目標と中期計画の比較対照表	

(1) 地方独立行政法人福岡市立病院機構第3期中期目標(案)について

○事務局

【資料1～3について説明】

○委員長

それでは、まず資料1・2、第3期中期目標(案)の前回からの修正に関して、ご意見やご質問はございますか。

○各委員

(意見なし)

○委員長

それでは、第3期中期目標(案)としては、この内容でまとめさせていただきます。次に、資料3の意見書について、ご意見やご質問はございますか。

○各委員

(意見なし)

○委員長

それでは、ご意見等もないようですので、この第3期中期目標(案)が、当評価委員会の意見が適切に反映されたものとして、市に意見書を提出させていただきます。

(2) 地方独立行政法人福岡市立病院機構第3期中期計画(素案)について

○病院機構(運営本部)

【資料4について説明】

○委員長

それでは、これより質疑に入りたいと思いますが、全体を5つに分けてご意見を伺いたいと思いますので、よろしくお願ひします。まず、資料4の1～4ページ、「目次～中期目標の期間」まで、ご質問やご意見はございますか。

○各委員

(意見なし)

○委員長

それでは、次に4～9ページ、「第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」について、ご質問やご意見はございますか。

○委員長

4 ページのこども病院の最後のところで、「診療機能（特に集中治療系病床等）の充実や見直しを図る」とありますが、具体的にはどのあたりを考えているのか教えていただきたいのですが。

○病院機構（こども病院）

まず一つは、NICU・GCU という新生児病床に関して、今度、増床を予定しておりますが、恐らく将来的には更に不足するのではないかと予測しておりますので、その充実が必要ではないかと思っています。

もう一つは、PICU はほとんどフル稼働しておりますが、HCU に関しては、スペースはあるものの、一部稼働していない病床がございます。看護師については、一度にたくさんの教育ができないため、毎年、教育可能な数だけを増やしているのですが、まだフル稼働には到達しておりませんので、HCU を稼働させるというのが来年度からの課題です。

○委員長

この領域は、看護師の教育・養成というのが大変なんですね。

○病院機構（こども病院）

新人看護師がいきなり ICU 等の看護をすることは無理で、3 年程度はかかるとして養成しています。新人の比率が高くなりすぎると看護レベルが下がるということもあります。

○委員

6 ページ「地域医療への貢献と医療連携の推進」について、NICU や GCU を退院されたお子さんたちが、在宅で治療を継続する場合に、訪問看護ステーションやかかりつけ医の関わりがとても重要だと思います。実際に福岡で訪問看護ステーションが、18 歳未満の患者さんにサービスを提供している割合が 5 割に届いていないというデータもありますので、そういう看護師の教育は重要だと感じています。そういった意味で、こども病院のほうにも「訪問看護ステーション・かかりつけ医」という具体的な文言が入った方が分かりやすいと思いました。

それと、もう一点ですが、1 日あたりの外来単価について、両病院とも 32 年度目標値が 27 年度実績から下がっている理由を教えてくださいませんか。

○病院機構（こども病院）

外来単価につきましては、RS ウイルス抗体シナジスという高価な薬で非常に大きく左右され、変動するものです。参考資料 2 をご覧いただくと分かるかと思いますが、その薬を使う期間が長くなると高くなり、短いと低くなるということになりますので、あまり目標値を高く設定しすぎると達成できない可能性もありますので、このくらいで設定しています。

○病院機構（市民病院）

参考資料2をご覧いただきたいのですが、27年度から急激に単価が上がっている原因は、C型肝炎の治療薬を使ったことです。この薬は非常に特効性があり、ほぼ100%効きますので、当院にかかっていた患者はほぼ全員が治りました。これにより、今後、この薬を使うのが少なくなるということで、目標値を下げ設定したところです。

○副委員長

私は、熊本市民病院の建替えの委員会に参加させていただきましたが、その中では、病院が機能しなくなって、ICU等に入院していた患者をどこで受け入れるかということは大きな問題になりました。こども病院はアイランドシティにありますので、あの橋が全部ダメになってしまった場合などを考えると、入院している患者をどこで受け入れるのかという視点でのBCP（Business continuity plan）を作らないといけないと思いますが、それはこの中に含まれているのでしょうか。

○病院機構（こども病院）

ここには記載していませんが、現在、福岡県で災害が起こった場合に、九州大学病院、福岡大学病院、産業医科大学病院、久留米大学病院など、小児医療の拠点をどのようにするかについて、もうすぐ福岡県が検討を始める予定になっていますので、それが完成すれば、もう少し具体的なものが盛り込めると思います。

○病院機構（運営本部）

機構として補足いたしますと、新型インフルエンザに関しては、指定地方公共機関でもありますので、現在、BCPに基づいたマニュアルを策定中です。同時に、災害に対しましても、中期計画とは別に作成中でございます。

○保健福祉局長

アイランドシティという立地の件について、行政側として補足で説明させていただきます。橋ということで大規模地震等をご心配いただいているところですが、これは、過去のこども病院移転に際しましても、かなり議論になった点でございます。結論から申し上げますと、アイランドシティに架かっている3本の橋につきましては、最新の設計基準に基づいて施工しておりますので、絶対ということはないと思いますが、恐らく市内の橋の中で最も強固なものでございます。仮にあの橋がダメになるような場合には、陸側のほうがより大きな被害を受けているものと思われまいます。そういったことも踏まえて、万が一の大規模災害に備えて、アイランドシティの港側に耐震岸壁、こども病院にはヘリポートを設けておりますので、大規模災害の場合にはそれらを活用するというところで考えております。

○委員

オープンカンファレンスや逆紹介率などの目標値が下がっていますが、せっかく実績が伸びてきておりますし、目標ですので、決定的な制約がなければ、上げるとか、少なくとも現状維持ではいかがでしょうか。

○病院機構（市民病院）

これに関しては、職員がかなり頑張った成果として、前年度の実績がかなり高く出ております。しかしながら、今後の目標値を設定する際に、今回はここまで上がったから次はここだという風に、常にステップアップするような目標値を設定するのは、非常に難しいものがございます。参考資料2には、過去の実績値のみが記載されていますが、実際にはそれぞれの目標値は上がってきております。ご理解をお願いしたいと思います。

○委員

例えば、現状維持や過去数年間の平均などはどうでしょうか。

○病院機構（市民病院）

これまでが良かったから次も、というのは組織マネジメントとして苦しいところがあります。結果として良い結果がでるような全体最適化という視点で考えておりますので、そのあたりはご理解をお願いしたいと思います。

○病院機構（こども病院）

追加ですが、参考資料2を見ていただくと、こども病院のオープンカンファレンスが飛びぬけて多くなっております。これは、新病院の開院ということも影響したと考えており、それを考慮した目標設定にしております。

○委員

4年間の最後の着地点が低いというのは、いかがでしょうか。少し考えられてもいいのかなと思います。

○病院機構（市民病院）

分かりました。評価委員会のご意見として重く受け止めて、若干、変更させていただき
ます。

また、逆紹介率ですが、市民病院は既に、単発的には150%以上になることもあり、近辺の病院では恐らくないような高い数字でございます。これの目標値をどこに設定するか悩んだところです。

○委員長

この130%という数字は素晴らしい、十分だと思います。当院では85%程度です。

○病院機構（市民病院）

オープンカンファレンスにつきましては、再度検討して、報告させていただきます。

○委員長

8ページの市民病院の患者満足度調査に関して、実績値90.1に対して目標値を85.0にされていることについて、経営手法や考え方の違いかとは思いますが、もう少し高くしてもいいのではないのでしょうか。ご検討いただければと思います。

また、7ページの災害時の記載について、先般の熊本地震や西方沖地震もありましたし、いつ大きな地震が起きるとも限りません。そういった意味で、危機感を持った体制、対応を表す必要があるのではないかと思います。市民病院は、市民から期待されている病院です。通り一遍の表現ではなくもう少し具体的に、例えば、駆け込んでくる被災者のために、発災と同時にスタッフが集まれるような体制づくりなど、そういったプランを作り上げる必要があるのではないのでしょうか。

○病院機構（市民病院）

大規模災害時には、実際に職員が全員出勤することになっておりまして、それにつきましては、別途策定しております。また、先ほどの委員からのご発言のようにBCPに基づいたものを作成する必要がありますので、そちらも作成してまいります。その中で、ニュアンスを盛り込んでどうかのご意見ですので、1～2行文言を追加することを考えてみたいと思います。

○副委員長

文言に関しては、「別途定めるBCPに基づいた災害対応計画に～」という感じでいいのではないのでしょうか。具体的なものがあるかどうかが大変だと思います。

在宅復帰支援体制に力を入れるとのことですが、それに関連するような指標を設定していただくと良いのかなと思います。

また、5ページに「医療計画における4疾病」とあり、どうしてもそちらに行きがちですが、これから福岡で増えてくる肺炎、骨折、脳血管障害、慢性心不全などの高齢者の救急をどうするのかというのも、一言加えてもらいたいと思います。

○病院機構（市民病院）

今のご指摘については、6ページの(2)④に関連しますが、急性期病院が地域包括ケアシステムの中でどれだけ動けるかというのを非常に悩みましたが、あまり在宅のほうまで下がっていけないのではないかと考えております。訪問看護ステーションと連携して行っていただくとか、同ステーションの看護師を教育するシステムを作るとか、そういうところで急性期病院としての役割を果たそうとされているところです。そういった中で、「在宅復帰支援体制並びに緊急時の入院受入体制の強化」というところが、今おっしゃった肺炎や骨折などを中核病院として受け入れる意思を、この中で表現したものでございます。近くに同様の機能を持つ病院がありますので、我々がどこまでやるかというところに少し配慮しつつ、連携の中で行っていこうと考えております。

また、在宅復帰支援体制を評価し得る指標でございますが、こども病院は「退院支援計画件数」、市民病院は「退院調整件数」を新たに設けております。現在のところ、まだ件数は少ないですが、これをしっかりやっていこうと考えております。

○委員長

それでは、次に9～10ページ、「第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」について、ご質問やご意見はございますか。

○各委員

(意見なし)

○委員長

それでは、次に 10～13 ページ、「第 3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとすべき措置」について、ご質問やご意見はございますか。

○委員

中期目標に関するところですが、「1 経営基盤の強化」の「(2) 投資財源の確保」が少し難しい表現になっているように思います。病院機構は、現在 40 億円近くの積立金があると思うのですが、それを将来的な投資計画に充てる、という意味でしょうか。

○事務局

委員がおっしゃったように、現在、剰余金というかたちで貯まっている部分もありますが、これから先の施設整備や医療機器の更新といった投資計画を見据えた上で、自己財源の確保に努めてもらいたい、ということを中期計画の中で示したものでございます。

○保健福祉局長

通常の医療法人が投資する場合、金融機関から借り入れることができますが、地方独立行政法人は、必ず市から借りなければならず、市はその貸付額全額分の起債をうちます。しかしながら、現在、市は起債額を抑制しておりますので、市の立場からすると、例えば市民病院の大規模改修や建替えの場合に、すぐに全額起債をうてる保証があるかと言うと、それは必ずしも約束できない状況にあります。なおかつ、病院機構には、内部留保が貯まっていますので、無駄な内部留保分があるのであれば市に納めていただくことを検討するなど、そのような背景がございます。

○委員

市民病院やこども病院が努力されているのは分かりますが、運営費負担金をもらっていることでもありますので、市の財政当局から 40 億円の内部留保を返してもらいたいというスタンスで来られた場合、どうするのでしょうか。

○事務局

運営費負担金につきましては、収支差部分を補うということで、不採算医療の補てんという意味合いがございますので、病院機構の自助努力で貯めた内部留保とは違った扱いをしなければならいのではないかと考えております。しかし、確かに目の前に 40 億円というものが積みあがった状態でありまして、財政当局からもそのような指摘を受けているところです。

○委員長

11 ページの右上にある医業収支比率ですが、これは病院にとって非常に大事な数字で、制度的に難しいところがあるかもしれませんが、これを良い数字にするというのが大命題

だと思います。先ほども控えめな数字という話がありましたので、32年度の目標値については、実績値より高めに設定していただければありがたいと思います。

○病院機構（市民病院）

重く承りたいと思いますが、ひとつだけご説明差し上げると、実は、両病院とも27年度実績値が26年度実績よりも低くなっているかと思います。これは、昨年度から監査法人により監査が入り、控除対象外消費税等を医業費用に計上するように指摘があったものでございます。これまでは、公立病院ということで、医業外費用に組み込んでいたところですが、医業費用に組み込んだことにより、医業収支比率が極端に下がったものです。第3期におきましては、委員長がおっしゃるような95%くらいまでは持って行きたいとは思いますが、エビデンス・実績に即したものしか出せないと考えております。

○委員

資料内に、物量（患者数）・単価が記載されていますが、これは現在作成していると思われる予算に反映しているのでしょうか。

○病院機構（市民病院）

もちろんこれを基に予算編成を行っており、4年間の各年度の数値も向上するように設定しております。先ほどの少し低めに設定しておりました指標につきましては、収支に係る経営指標とは関係ないところのものです。

○委員長

12ページの目標値について、市内の救急件数は毎年確実に伸びておりますので、市民病院の目標値はもっと伸びるのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

○病院機構（市民病院）

救急医が出たり入ったりということもございまして、現在、最低1名は確保しているところでございます。第2期では、目標を3,000件としておりましたが、その時は救急医が3名おりました。3次救急であれば、救急医の確保ができるかと思いますが、2～2.5次ではなかなか確保するのが難しいこともあり、現在、伸び悩んでいるところです。

○委員長

市民病院のジェネリック医薬品導入率の32年度目標値83%というのは、DPCでメリットのある数字を後追いしており、また、27年度実績もかなり低い数字になっております。

○病院機構（市民病院）

27年度実績については、DPC目標値の70%を超えているという認識だったのですが、改めて精査し直すと70%を切っていたという状況で、これは私の認識不足でございました。

○委員長

それでは、次に 14 ページ、「第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとすべき措置」について、ご質問やご意見はございますか。

○委員長

1 委員としまして、私は専門外ではありますが、こども病院は日本の宝ではないかと思うくらい心から期待しておりますので、このように高らかに宣言をして良い病院になっていただきたいと思っております。市民病院については、今、地域医療構想と地域包括ケアシステムの中で、いかに良い機能を発揮していくのか、というところを考えていかなければなりませんね。

○委員

昨日、こども病院の先生とお会いし、着実に病床利用率が上がってきた、というお話をされてきました。こども病院は九州の宝であり、重症患者が多いと思うのですが、退院されたお子さんたちはどういったところに行っているのでしょうか。

○病院機構（こども病院）

最も多い循環器科の患者は、九州大学病院の循環器内科で診ていただいておりますが、現在、成人の CHD（先天性心疾患）が問題になっており、そこでしっかりケアしていただけるように、こども病院と九州大学病院の循環器内科の間で、月に1～2回程度交流するなど密接な関係を築いております。

○委員長

こども病院の横の宿泊施設の利用状況はどのようなもののでしょうか。

○病院機構（こども病院）

ふくおかハウスは、県外の方からもご利用いただいております。これまでは救急用に1室空き部屋を確保しておりましたが、現在は、16室全てを常時使えるようにし、非常に高い利用率となっております。

○委員長

ふくおかハウスの運営はどこが行っているのでしょうか。

○病院機構（こども病院）

運営は、公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンが行っております。建設にあたりましては、市民からの寄付を募りまして、同財団との合計4億円で整備した施設でございます。利用率につきましては、28年度6月現在で、87%という状況でございます。

○委員長

有料ですよ。

○病院機構（こども病院）

1泊1名あたり1,000円を頂戴しております。

○委員長

それでは、全体を通して何かございましたらお願いいたします。

○委員

資料1の中期目標（案）の修正を改めて読み返してみると、「経営状況」という文言が、資料4の14ページの「経営改善の推進」と繋がらない気がします。これは感想ですので、どうしても変えてほしいということではありませんが、将来に向けた表現として、「経営改善状況」の方がよかったのではないかと思います。

○事務局

資料1の中期目標（案）の修正につきましても、本日、委員の皆様からご意見を伺うものでございまして、ご意見があれば変更することも可能でございます。皆様のご意見を賜ればと思います。

○委員長

感想をいただいたということによろしいですか。

○委員

はい。感想として発言したものですので、そのまま結構です。

その他

○事務局

【第5回の日程、今後の予定等について説明】

それでは、本日の委員会は、これで終了させていただきます。